日韓の歴史をたどる ㉕

民衆の抵抗

樋口　雄一

日本と朝鮮は歴史的に、違う言葉と慣習、食習慣を作りあげてきました。日本はこの違いを無視して植民地支配を強行、大きな抵抗を生みました。

短期間に朝鮮の民俗・習慣を無視して日本化を進め、朝鮮人と朝鮮文化を差別したこと、日本の利益を前面に朝鮮の土地と人を収奪し、豊富な人材と文化、豊かな土地、資源を持つ国を奪ったことが広範な抵抗を生んだ理由です。

侵略批判の言動　取り締まる法律

朝鮮人民衆の日本へのさまざまな形での抵抗を取り締まるため、日本は韓国政府に1907（明治40）年、保安法を制定させました。同法は「政治に関し不穏の言論動作または他人を煽動教唆」などによって治安を妨害するものに2年以下の懲役などの重い刑を科し、日本の侵略を批判する言動を取り締まりました。

1919年に三・一運動が起きると、その弾圧のために同年4月、「政治に関する犯罪処罰の件」（制令7号）を公布・施行。最高刑を10年以下の懲役または禁錮と大幅に引き上げました。1925年に日本国内で治安維持法が成立すると朝鮮でも同時に施行され、独立運動や社会運動を弾圧しました。

朝鮮民衆は三・一運動のような直接的な行動以外にも、さまざまな抵抗をしました。日本の戦争遂行政策とそれへの抵抗といえる事例を挙げます。

・戦時下の日本と同様に朝鮮でも、天皇誕生日などの祝日に日本国旗を掲げることが強制されていましたが、朝鮮で発行されていた日本語新聞の釜山日報には、朝鮮人が「玉のない国旗」を掲げていたり、はなはだしい時には5日間もぶっ通しで掲げているという噂きが載っています。「玉のない国旗」とは、赤い「日の丸」のない白い旗のことで、それを何日も掲げているのは不敬だと指摘しているのです。朝鮮人にとって、なんのために挙げるのか理解できなかったのです。

・1942年10月、慶尚北道の警察部長が大邱地方法院の検事正に出した文書には、米を供出した後に自家消費の食がなくなった農民が、配給日をねらい、警察や面事務所（日本の村役場に当たる）に押しかけて配給を要求したという報告があります。そのような行動が広がっているという内容です。

・朝鮮農政の研究者、総督府小作官の久間健一は、『朝鮮農政の課題』（1944年）で、農民は米の収穫直前、あるいは刈り取り、脱穀、小作料納付時などに98の不正な方法で米を盗み取ったと詳細に書いています。食糧難のなかで生命を維持するための農民の抵抗の一つでした。

西大門刑務所が当時の様子伝え

・強制動員で日本に連れてこられた労働者も、食糧不足などで集団での紛争はめずらしくありませんでした。職場から逃亡したそれらの人は、朝鮮人集住地区や追及されない軍の作業場に入り込みました。そのため工場の現場などでは労働者が不足し、逃亡が見つかるとひどいリンチで死亡することもありました。

抵抗したために、保安法、制令7号、治安維持法の3法が適用された朝鮮人の総計は1907～1941年末までで1万5032人で、件数は2549件となっています（朝鮮『司法協会雑誌』22巻11号、1943年の掲載論文から）。この数字は、裁判の第1審で有罪となった人のみです。

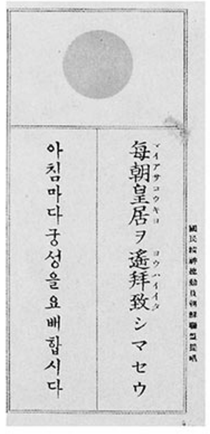
朝鮮人の多くの人々が朝鮮内の各刑務所に収監されました。現在、観光地のソウルでは、3法が適用された西大門刑務所が、当時の様子を伝えるために公開されています。

1945年8月15日を迎えた朝鮮人は、朝鮮全土、外国にいた大半の人々が解放を一斉に祝い行進しました。朝鮮人にとってこの日は「解放」の日で、現在でも祝日です。

（ひぐち・ゆういち　朝鮮史研究者）

「白い旗」を掲げたままに

↑朝鮮総督府が設置し朝鮮人を投獄した刑務所の展示模型（『独立紀念館』から）



←国民精神総動員朝鮮連盟が配った東方遥拝を強要するチラシ（『独立紀念館』から）

朝の風

新型コロナウイルス感染防止のため、周囲ではテレワークやオンライン会議が一気に広がっている。在宅勤務を増やし、インターネットを使った映像と音声で交流できる「Zoom」会議・学習会が当たり前になった。

当初は戸惑いもあったが、若手のサポートを受けながら操作を覚えるととても便利だ。

これまでは遠方のため、あるいは家事のために参加しづらかった学習会にも、自宅から気軽に参加できるようになった。さまざまな

オンライン交流の利点

Zoom学習・交流会が盛況で、全国から費用負担も少なく気軽に参加できるのはとても魅力だ。またIT世代の若者たちが主導している点も心強い。

移動時間がかからず全国・全世界規模で交流できることは、家庭責任を負うことの多い女性や、移動が負担となる障害者や高齢者にとってもメリットは大きい。

もちろん直接対面しない意思疎通の難しさがあり、「IT弱者」への配慮も必要だ。リモートワークは労働時間管理があいまいになりやすく、セキュリティーへの不安、在宅勤務時の家族との関係など課題もたくさんある。

それでも、新しい技術によって広範な市民が気軽に交流し意思表明できることは、民主主義を進める大きな可能性があると感じている。（松）

文化　学問

深い愛情に満ちた舞台に

40歳の初挑戦　一人芝居「審判」

加藤　義宗

2020年は私の役者人生にとってとても大きな年になると思っています。40歳になる今年、演劇プロデュース集団「義庵（あん）」を立ち上げ、第1回公演として、一人芝居「審判」に初挑戦します。演出に迎えるのは父・加藤健一です。

極限下の出来事

「審判」は、加藤健一がライフワークとして25年にわたり上演してきた作品です。第2次世界大戦中、ドイツ軍の捕虜となったロシア軍陸軍大尉アンドレイ・ヴァホフが、同胞将校6人と共に軍服さえ剥ぎ取られ、裸で食糧も水もない地下室に閉じ込められます。やがて彼らは1人でも生き延びて、自分の最後を最愛の人に伝えてもらうため、クジ引きし順番に肉体を放棄する選択をします。

監禁から60日後、生き残ったのはたった2人。気の狂ってしまったルービン、そして正常なヴァホフ。彼は陪審員（観客）に向かい、この地下室でいったい何があったのか、その出来事についての審判を問います。見る人によっては恐ろしさを感じるかもしれませんが、それよりもはるかに大きな深い愛情を描いた心動かされる作品です。

今年、この作品に役者人生の全てをかけるため、1月2日より自主稽古を開始しました。いままでこれほどの稽古期間をとった公演はありません。毎日稽古場で演じながら、また読みながら自然と涙が出てきてしまうほど感動しています。

加藤義宗さん（本人提供）

役者人生の財産

私は28歳のときから舞台を本格的に学ぶため、加藤健一に師事し、公演の演出部として舞台の作り方を基礎から学んできました。幼い頃は、なぜ父がこの芝居を何度も演じるのか不思議でした。しかし、役者を志し、こんなにも心を動かされる芝居だったのかと気づき、いつか「審判」をやりたいと思い続けてきました。加藤健一と一対一で綿密に舞台を作り上げる事ができるのも、この芝居以外にはないと思っています。

加藤健一から全てを学ぶ時間は自分の役者人生にとって、本当に大きな財産になるはずです。同時に、この作品に挑む事への怖さも痛感しています。この作品に登場する7人それぞれの人生や思い、その全てを伝え必ずや素晴らしい作品にします。

（かとう・よしむね　俳優）

＊「審判」（作＝バリー・コリンズ、訳＝青井陽治）。9月9～13日、東京・シアター風姿花伝。☎080（7014）0114（義庵）

映画　「マルモイ　ことばあつめ」（韓国）

パンス（左）とジョンファン

©2020 LOTTE ENTERTAINMENT All Rights Reserved.

植民地下 民族の誇り求め

1940年代、大日本帝国植民地時代の韓国に、日本語の強制に抗い、初の朝鮮語辞典を作ろうと献身する先駆者たちがいた。

チンピラ生活を送り、2人の子を育てる非識字者キム・パンス（ユ・ヘジン）。裕福な出身ながら命がけで民族の誇りを追求するリュ・ジョンファン（ユン・ゲサン）。2人のぶつかり合いと友情、読み書きの喜びを覚えて型破りな活躍を見せるパンスを信頼していくジョンファン。両俳優の名演が笑いと涙を誘う。仲間を演じる俳優陣もいい。

同志。この言葉の本当の深さを感じさせる作品だ。弾圧されるシーンは、同時代に植民地支配と侵略戦争に反対して殺された日本の先駆者たちの姿とも重なる。

実際の朝鮮語学会事件をもとに脚本・監督オム・ユナが描くものは、民族独立の尊さに加え、貧しさでみじめな存在が仲間との意義深い行動で孤立から脱していくありようだろう。歴史を刻むと同時に、日本と共通の格差社会に苦しむ現代韓国の人びとを励ましているようだ。韓国各地の豊かな方言も生き生きと出る。

唯一残念なのは、日本人役も韓国俳優なので若干言葉が不自然に感じられるところだ。韓国人の苦難に共感する日本人俳優がすすんで歴史上の悪役を演じる時代になってほしいものだ。

随所に詩の朗読のような独白が光り、さすがは詩の本場。喜怒哀楽の激情爆発と、静かに深く語る文学モードが共存していて、わたしも涙を禁じえなかった。

（佐相憲一・詩人）

10日から東京・シネマート新宿ほか順次全国で

読者の文芸

詩は原稿用紙に20行以内縦書き、短歌、俳句、川柳は、はがき（5首・句以内）で、表に分野の区別を朱記。二重投稿はご遠慮ください。郵便番号、住所、氏名、電話番号明記。紙上匿名は自由。あて先は　〒151－8675　東京代々木郵便局私書箱62号、赤旗学術・文化部「読者の文芸」係。メールでも投稿可　akahata-bungei@jcp.or.jp（件名に分野を明記）　掲載作に図書カード贈呈。

川柳

新家　完司 選

手作りの料理も遠くなる老後　福島県　佐藤　隆貴

前を向くミミズのようにもがもがと　京都市　森光カナエ

日に幾度ネコを撫でては独り言　北海道　冨樫アキ子

いいとこで切るコマーシャル買いません　横浜市　小川仙太郎

足の爪まだ切れるかと子の電話　沖縄県　野原なをみ

カタカナ語飛び交う空に稲光　神奈川県　石田　百夏

〈評〉誰にでも一人では抱えきれぬほどの試練が来る。遠慮せず周囲や行政に援助を求めよう。助け合ってこその人間だ。

乳ガンの娘に認知症の妻　広島県　野村　賢悟

俳句

三宅やよい 選

香水と縁なく生きしわが母は　北海道　古川　裕

白玉の最後の一つ気にかかる　秋田県　片倉万葉子

十薬や洗濯物を軒に干す　新潟県　福嶋　隆男

ぬばたまの星の植田となりにけり　山梨県　北村　和利

昼顔のフランスデモのやうに咲き　さいたま市　関根　道豊

〈評〉道幅いっぱいに広がる市民デモと昼顔の咲きぶり。映画「昼顔」のエロス。言葉の出会いからイメージが広がる。

紫陽花や俳句に遊び遊ばれて　千葉県　松下　佳紀

短歌

大井　学 選

踏切を横切る子猫見るような心もとない口座残高　岩手県　佐々木清志

〈評〉口座残高の頼りなさをいう比喩の面白さに一首が支えられている。傍観とも異なる不思議な、そして親身な視点。

まだ少し先と思いて延命は要らぬと言いしがコロナでどうする　東京都　村山　紀子

〈評〉医療崩壊の状況では、厳しいトリアージ（治療の優先度決定）が必要となる。そこでの「延命」は平常時と異なるのかどうか。逡巡は続く。

ウイルスを避けて電波につながって人の形の傷はうごめく　大阪府　井上　欠伸

〈評〉ウェブ越しに映る人の顔は、電波の故に奇妙にゆがみ、傷そのもののように見える。

白百合がスポットライト受けた如一隅に咲く梅雨深き庭　横浜市　山田　広江

詩

Pippo（ぴっぽ） 選

子どもたちへのプレゼント

千葉県　村上ますえ

年度末の突然の休校
担任の先生とのお別れもできないまま
新学期も休校
新しいクラスメイト　新しい担任の先生と
運動場でちょっと会っただけ
課題は靴箱で受け取り　家庭学習
　こんなの学校じゃないや
孫はつぶやく

クラスの半分ずつの分散登校
「夏休みをなくせ　土曜授業を」
大人の論理がまかり通る

こんな中ふと耳を傾けた国会中継
「コロナの困難を乗り越えたあと
　子どもたちへのプレゼントとして
　少人数学級を」
コロナ禍にひしがれる子どもに寄り添い
展望を語れる政治家がいた

〈評〉村上さん。コロナ禍の特別な春と初夏。叫ばれる「大人の論理」。そんな中、子らの心情に寄り添える政治家の存在は、じつに救いです。

非人情

愛知県　ひの　てるひさ

訳あって祖母の実家を訪ねた
母の従弟がひとり暮らしていた
九十歳だが腰は伸び口も達者だった
　長く先生をなさっていたと聞きました
　四十五年やったかねえ　もう夢のようだわ
今は晴耕雨読ですか
ハハ　毎日畑には出とるけど本は読まんわ
新聞を眺めるぐらいだわね
私らにはテレビもラジオも別世界だでね
草生した広い庭に洗濯物が翻る
お食事はご自分で？
まだ自分で作れるで　弁当もとっとるけど
鴨居の上に軍服姿の青年がふたり
ご兄弟ですか
兄たちだわね
大風に吹かれたようなもんだわ
おかげで弔慰金がもらえるけどよ
青年たちが私たちを見下ろしてきた

ひのさん。長く先生をされ、今はひとり暮らしという高齢のご親戚のかたのお人柄、お元気さ、達観ぶりが、みごとに活写されている。

「かんけいない」「べつに」「むかつく」と吐き捨てるきみのこころに野あざみの葉　大阪府　馬場　順子

蛭に足噛まれしと見する母も居り村の田植えの記憶の動画　東京都　牛尾小夜子

非正規の母が働くスーパーの窓に寄り添う子供が一人　大阪市　奥田　文夫

桜桃を贈りきし君今はとく今朝は寂しく店頭に買う　奈良県　大森富士子

公園にサッカーボール一個忘れ物か車いすから眺む夕暮れ　札幌市　橋　晃弘

透明なカーテン越しに物を買うことにも慣れてバラの咲き初む　東京都　山口　信子

高層のビルに古里追はれたる炙のころぐさの静かな揺らぎ　名古屋市　池田美恵子

コロナにも雨にも負けずたちあおいすっくと伸びて又夏が来る　仙台市　相原　幸子

腕の子も踊り出したる祭笛　山梨県　柳沢荘次郎

片恋の気軽さが好きソーダ水　川崎市　和泉まさ江

菜園の胡瓜に確かな種のあり　京都府　長谷川喜八

涼しさやひとりひと間のひと机　新潟市　渡辺　徳治

枝拾い杖にする夫夏の山　岡山市　香山　秀子

生ビール浜の小さきラーメン屋　千葉県　福原　實

人戻りコロナも戻り梅雨の街　東京都　鳴海　克實

はくれんや敗訴の怒り満面に　熊本市　右田　捷朗

飛びはねて解除喜ぶ部活の子　香川県　田村　節子

マスク外し腹いっぱいに青葉風　東京都　大橋木実男

居眠りができないオンライン会議　山口県　下村由美子

富士登山金剛杖が泣いている　名古屋市　横井　昌義

自粛中かさんでいます電話代　札幌市　鈴木　英雄

委託費という税金の無駄遣い　神奈川県　桑山　俊昭

坂道を転がるごとく物忘れ　広島県　北村　善昭

ものさしを知らない世代増えていく　福岡市　津田　明子